unicef

ユニセフと地球の子どもたち⑯

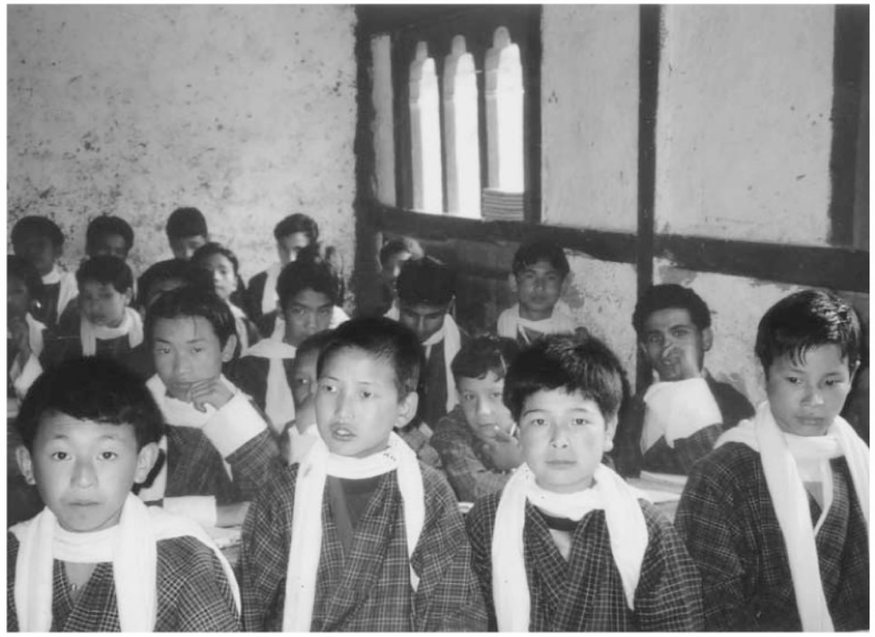
http://www.unicef.or.jp

ブータン
Kingdom of Bhutan

文化や伝統を守りながら国の発展を考える

ブータンは、面積が約四万七千平方キロ。日本の九州くらいの大きさに人口が二百十九万人という、とても小さな国なんだ。人口十三億人の中国と、十億人のインドという巨大な国にかこまれていて、自分たちの国の文化や伝統を守りながら、国の発展を考えている。サンガくん（十歳）が、学校生活を話してくれるよ。




ブータンの子どもたち。教室の窓はプラスチックの板、窓わくは子どもたちの手づくりです　©日本ユニセフ協会

古い校舎、みんなで立派に改修
未来をになうため勉強に励む
先生や上級生らに支えられ

ぼくの学校は、標高二、〇〇〇メートルの山の上にある。ブータンは山国だから、もっと高いところに住んでいる人もたくさんいるよ。学校は四十年くらい前に建てられた。校舎も机もいすもとても古くて、こわれたらみんなで修理して使うんだ。校長先生は大工さんみたいに上手！　ぼくたちもお手伝いするんだよ。

自慢は教室の窓。ブータン特有のもようの窓わくに入っている。わくは、ぼくたちが一生懸命つくったんだ。そこに、ユニセフから支援を受けたプラスチックの板を入れたんだよ。プラスチックの板は、ガラスにくらべて、軽くて丈夫でこわれにくい。光をちゃんと通して、風もふせげる。大きなプラスチックの板を窓わくに合わせて切るんだ。

明るく寒さもふせげる窓に

前は、窓が木の板だったから、窓を閉めると教室は暗くて黒板の字はよく見えないし、みんな目が悪くなったんだって。冬はすきまから風がふきこんで、寒くて寒くて勉強なんてできなくて、かぜを引く子どもが多かった。プラスチックの窓は本当にうれしかったって、校長先生がニコニコしながら話してくれた。



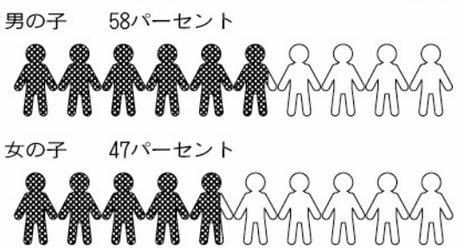
ぼくの村には学校がない。一番近いこの小学校は、山を三つこえたところにあって、歩いて丸一日かかる。とても遠くて、家からは通えないから、小学校に入ったときから寄宿舎でくらしているんだよ。

校長先生はいつもぼくたちにこういうよ。「勉強して、いろいろな知識を身につけることは、ブータンの未来をになうきみたちに、とても大切なことなんだ。家族とはなれてくらすのはさびしいと思うけれど、友だちも上級生も先生もいるからね。自分の力でしっかり生きていく力を身につけて、ブータンの自然や文化を守りながら、どうしたらブータンがよくなっていくかを考えられるようになろう。みんなで力を合わせてがんばろう」

ぼくは校長先生がとても大切なことをいっていることがよくわかる。だから、一生懸命に勉強するんだ。

掲載は一週おき。次は十七日の予定です

ブータンで小学校に通っている子どもの割合



「世界子供白書2004」から

世界のすべての子どもは「権利」をもち、「子どもの権利条約」に守られています。

第二十九条【教育の目的】は、子どもが自分の持っているよいところを、どんどんのばしていくことが教育の目的だとしています。

子どもの権利条約

子どもたちは教育を受けることで、自分もほかの人も同じように大切にされるということ、地球の自然の大切さなどを学ぶことができます。ブータンの子どもたちは、学校の勉強を通して、生きていくために必要なことを学び、身につけていくのです。

ユニセフといっしょに

全国には、日本ユニセフ協会に協力するボランティアの人たちの集まりが二十六あります。千葉県で活動する「千葉県支部」が、ユニセフの活動に取り組んだ小学校を紹介してくれます。

世界の子どもたちについて学び発表も

千葉県成田市神宮寺小学校三、四年生

千葉県成田市の神宮寺小学校は、毎年三、四年生が世界の子どもについて学んでいます。ことしで四年目。千葉県支部のユニセフ学習会で、ネパールで使われている水がめを持ったり、ベトナムの子どもの状況や地雷のおそろしさ、脱水症状から子どもを守る経口補水塩のはたらきなどを学んだりしました。

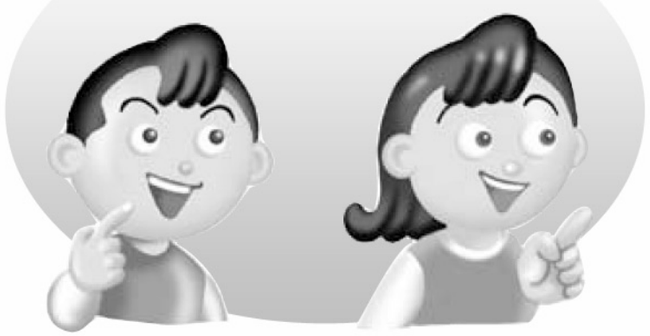
世界の子どもがどんな状況にあるかを知ることは、自分の生活を見なおすことにもつながります。



一生懸命に演じる神宮寺小学校の子どもたち　©日本ユニセフ協会

予防接種を受ける子、30年で1割から7割以上に広がる

支援で改善された事は？



もっと知りたい！

しつもん　ユニセフなどの支援で、前とくらべて、何が、どのくらいよくなったのですか？

（岡山県・末岡奈緒子・五年）

こたえ　ユニセフが子どものために活動を始めて、もうすぐ六十年になります。長い活動を通して、世界中の人たちに子どもの問題の重大さを知らせ、子どもを守ってきました。

たとえば、一九九〇年頃は、予防できる病気で命を失う五歳未満の子どもは一年間で千四百万人以上もいましたが、いまは千百万人。三百万人というのは、末岡さんがくらす岡山県と香川県の人口を合わせたくらいのたくさんの人数です。

みなさんも赤ちゃんのとき、病気をふせぐために受けた予防接種。三十年くらい前は、世界の子どもの約一〇パーセントしか受けていませんでしたが、多くの人の努力で、いまは約七三パーセントの子どもたちが受けられるようになりました。

ユニセフのホームページや資料で、ほかにもどんなことがよくなったか、調べてみてくださいね。